



### 江名町に残る

#### 奇蹟へそ石物語り(二)

龍ヶ崎 仙人

そんな噂のあつた後三十めた、之れが舊暦四月二十五年のまゝで過ぎた明治日のごときであつた、初めて二十五の秋、濱にも珍らこの話を聞いたのは大正十からともなく無惨な馬の死吉田氏はまだ存命されて詳體が波にたゞよつて来た、しい事を話してくれたので波はこれを強く「へそ石」あつたが、惜しい事にそのに打ち付けたすると石は翌翌年亡くなられた本當の「へそ石」は今でも相變らず心配して、方々開いたり尋太平洋の波を呑吐してゐるねたりしたが何所に居るか如何しても見當らない尋ねあぐんで似た石を見付けて假りに其跡に入れてをいた星移り年變ること二十有餘年大はもう「へそ石」の事を忘れてしまつた大正六年卯の花匂ひ月朧の或る夜吉田常松と云ふ老人が濱を歩くと一人の見慣れぬ男が濱に立つてしくしく泣いてゐる。隣をたづねるとわい「こそは「へそ石」だか此所小松勝馬君皮肉な「ペンネ」に埋まつてから二十五年に「ム」か支那人かは知らななるが人が見付けてくれたが埋立地問題に關する江名町の毎日毎晩泣いてゐる。名町會協議會に就き本月八と語つたと思ふと消えてし日九日の兩日に書かれましまつたと思つた。判めいたことを書かれましまつたと思つた。夜明けを待た正休の分らぬ者に對し彼つて人々に語つた漁夫仲間是非明がまききことを云ふは手に手に道具を持ち常松のも大人氣ないとも思つたに案内されて龍ヶ崎の西方の村に餘りに町民を迷は五十間位の、其所らしい所すもの下あるから一應我がを掘つて見たところまがの主張點を明かにし町民各ふ方なき本物のへそ石があ位を始め大方有識の士の批つたので村人の喜び一方な判を待つべく本紙を借りるらず勇氣満面て元の所に納事に致しました「つゞく」

#### 折埋立地問題

江名町町議員小松金十郎

金成 喜重

遠藤 勝馬

江尻藤次郎

外賛成者(寄)

小松勝馬君皮肉な「ペンネ」

「ム」か支那人かは知らな

なるが人が見付けてくれたが埋立地問題に關する江

名町の毎日毎晩泣いてゐる。

名町會協議會に就き本月八

と語つたと思ふと消えてし日九日の兩日に書かれまし

ままつたと思つた。判めいたことを書かれましまつたと思つた。夜明けを待た正休の分らぬ者に對し彼

つて人々に語つた漁夫仲間是非明がまききことを云ふ

は手に手に道具を持ち常松のも大人氣ないとも思つた

に案内されて龍ヶ崎の西方の村に餘りに町民を迷は

五十間位の、其所らしい所すもの下あるから一應我が

を掘つて見たところまがの主張點を明かにし町民各

ふ方なき本物のへそ石があ位を始め大方有識の士の批

つたので村人の喜び一方な判を待つべく本紙を借りる

らず勇氣満面て元の所に納事に致しました「つゞく」

## 祝日刊發行

泉信用組合長 齋藤昌孝

小名濱町後田義之助

海産物商馬上一

洋品洋服商金成嘉忠

各種印刷錦港社

齒科醫院主 中野政治

乗合自動車業 馬目喜右工門

一寫 眞 尾城寫眞館

小名濱町松原正美

江名町々會議員 金成喜重

船陸發動機製作  
並ニ修繕  
電動機諸機械  
販賣修繕

小名濱町漁港入口  
丸八鐵工場  
電話開通(小名濱)一七五番



内科・外科  
小兒科  
花柳病科

### 平川醫院

江名町 電話二六番

クスリと家庭醫療の  
御相談は親切の店

### 白石藥舖

小名濱町中島通り  
電話三三番

内科外科  
花柳病科  
小兒科

### 會田醫院

院長 會田 亮  
小名濱町上横町

眞寫

自然研究から世の人のために  
時代形像を記録して後世に傳達する更に社會藝術化に  
資する大慈大悲主義の眞寫  
高級眞寫とは精神と個性技能の作品にして抵敵なる形  
式的眞寫に非ざるなり御覽評も乞ふ

美學眞寫技藝員 金井晃明  
金井晃園

肖像引伸、晁明式眞寫、油繪揮毫に應ず。  
其他萬般の眞寫萬能の攝影技能出張にも應じ申す  
可く御用命賜らん事を……

江名町 二見寫眞部

一般外科 (整形外科)  
内 科 花柳病科

### 草野醫院

小名濱町 電話一七三番

松竹映画上映

新興トキキ  
花咲く樹 後篇  
大谷日出夫の  
安中草三  
流れ雲様名峠  
松竹阪東橋之助の  
お江戸日本橋  
入江にか子のトキキ  
春姿娘道中  
松竹齋藤達雄の  
會社員閣下  
松竹阪東好太郎の  
殿様と隱密  
林長二郎オトルトキキ  
一二つ 燈籠

常十四日午後六時より  
入場料 大人二十錢  
軍艦來港  
記念興行世界館出張

### 磐城座

電話一五四